

平成 29 年 6 月 22 日

JXTG エネルギー株式会社 和歌山製油所
火災事故報告書について

高圧ガス保安協会
高圧ガス部

平成 29 年 1 月 18 日及び 22 日に発生した標記の火災事故について、事故調査報告書が当該事業者より公表されましたので、事故の概要とともにお知らせします。

この報告書は、高圧ガス製造事業所の皆様において、高圧ガス事故の未然防止にご参考になる情報が含まれていると思われますので、ご一読いただければ幸いです。

事故調査報告書掲載 URL

https://www.noe.jxtg-group.co.jp/newsrelease/2017/20170614_01_1150234.html

発 生 日 平成 29 年 1 月 18 日（水）事故-A

平成 29 年 1 月 22 日（日）事故-B

発生場所 JXTG エネルギー株式会社 和歌山製油所

被害状況 事故-A、事故-B ともに人的被害はなし。

事故概要

事故-A

潤滑油製造装置群の装置内部に生成したアルカリサワーウォーターによる配管の局部腐食により、穿孔し、内部流体(水素ガス等)が漏えいし、静電気によって着火、火災に至った。アルカリサワーウォーターは、腐食因子として特定され保安管理を行っていたが、アルカリサワーウォーターによる腐食のメカニズムは現在においても十分に解明されていないこともあり、今回の急激な腐食を予見できなかった。

事故-B

クリーニングのために開放された原油タンクの底板上に堆積していたスラッジに含まれる硫化鉄が自然発火し、スラッジ中の軽油成分などに着火、火災に至った。硫化鉄に関しては、発火リスクの低減が規程に盛り込まれていたが、十分な対応がとれなかった。

報告書

「VII.おわりに」より抜粋

2つの火災事故には、直接の関連性はなく、全くの別の事故であるが、間接要因については、共通性が見られる。即ち、いくつかの事故防止のための仕組み(ルール、手順書等-事故防止バリア)がありながら、その運用、実行に際して抜けがあったため、バリアを貫通して発災に至った点である。総括すると、「リスクアセスメントの甘さ」と、「決められたルール/手順書等を徹底的に実施しきれなかった」の2点が、今後の継続的改善のポイントと考えられる。

以上

本件連絡先 高圧ガス保安協会 高圧ガス部 事故調査課

メールアドレス hpg@khk.or.jp

Tel. 03-3436-6103

Fax.03-3438-4163